

自主創造

東大和市立第二中学校
第 1 学 年
学 年 通 信

2026 年
6 月 1 2 日
NO.9

体育大会作文

体育大会から早くも2週間が経とうとしています。今回は、体育大会に関する作文を掲載します。どのような思いで体育大会に臨んでいたか、先輩の姿を見て何を感じたかなど様々な視点で作文が書かれているのでぜひ、じっくりと読んでください。

体育大会 B組 ○番 ○○ ○○

体育大会を終えてぼくはがんばったことが三つあります。

一つ目は学年種目の大縄です。最初、練習したときは跳ぶタイミングがあわず、ひっかかってしまうことが多く、得点をのばすことができませんでした。しかし、跳ぶ位置を変えたり、跳ぶタイミングに気をつけたりして本番では練習よりも長い時間とぶことができました。記録は練習を大きく超える六十七点で一位でした。最初の記録を大きく超える得点でとてもうれしかったです。

二つ目は係の仕事です。自分は整備委員でゼッケンをわたす仕事がありましたがぼくは最初、緊張してうまく渡せませんでした。しかし、本番では自信をもってうまくわたすことができました。またイスの足をふく仕事では責任をもってやりとげることができました。

三つ目は学年種目のリレーです。最初は、バトンパスで、利得距離がせまかったり、渡すタイミングが合わなかったりしてうまくわたせませんでした。しかし、どれくらいで走り出すか決めたりして、うまくわたせるようになっていきました。本番でもタイミングに気をつけてうまくバトンパスすることができました。

体育大会でぼくは最後まで全力でがんばることができました。またこの行事でクラスの団結力が上がったと思います。

【来週の予定】○は各クラスの授業。×は授業がありません。

日	曜	行事他	給	①	②	③	④	⑤	⑥	備考
15	月		○	○	○	○	○	○	道	
16	火		○	○	○	○	○	○	○	
17	水	職員会議	○	○	○	○	○	道	×	
18	木	期末考査1日目	×	英	数	体	×	×	×	
19	金	期末考査2日目	×	社	理	技家	美	×	×	
20	土									
21	日									

※裏面もあります。

はじめての目標達成 C組 〇番 〇〇 〇〇

ぼくはこの体育大会ではじめて目標を達成した。その目標とはレコードをとることだ。まず小学校3年生から6年生の運動会ではいろいろな体験をした。その中でも心に残っているのが考えすぎるといことだ。昔そのようなことをしてしまい、よーいどんのところで止まってしまった。あまりいい結果ではなかった。そのようなことが起きないように、中学生でものすごくやる気がでた。実行委員をやろうとしたり走順を決めているときに意見をたくさん出したりした。体育大会の日、僕はなにも考えたりしていなかった。それは考えすぎないようにしたからだ。走る前に話しかけてくれた人たちの言葉も無視してしまったから、今も謝りたい気持ちがある。走りはじめた時、出だしはバッチリ、なにも考えることなくゴールした。結果はとてもよかった。レコードをとれたのだ。その時はとてもうれしい気持ちだった。それはいままでに目標達成したことがないからだ。そして次はリレー、いい結果でよろこんでいたらあっという間に次がリレーになっていた。あせっているがみんな一人ずつ走っていく。ぼくは3位でバトンをもらった。その時にはいい感じで走ることができなかった。そして次は大縄。回している時にたくさん声をかけた。結果は3位。そしてせんばつりレーでは1位でバトンをもらった。ぼくはとてもいい走りだった。このようなことからあせっている時こそ、調子は悪くなるということがわかった。

体育大会を終えて A組 〇番 〇〇 〇〇

私は、体育大会を終えてがんばったことと悔しかったことがあります。五十メートル走では、最後まで全力で走ることをがんばると決めて、本番、一位で最後まで全力でかけぬけました。自分のがんばると思ったことをできてよかったです。全員リレーでは、五番目に走るけど、最初の方で差をつけられたら、追いつけなくなると思って、差が大きくても、あきらめずに次の人にバトンを渡すことをがんばりました。本番では、少し差が大きかったけど、最後まで走りました。そしたら、距離が縮まってきて、最後まで走ってよかったですなと思いました。大縄では、時間がすぎても、跳びつづけていたことが、自分的にいいなと思いました。全員で跳んだとき、練習の時は、最高九回でした。本番で、時間がなってもA組は跳びつづけていました。縄がひっかかって記録は、十一回。最高記録で、すごくうれしかったです。私は、選抜リレーで三番目に走ります。二番目の友達が走っている時、B組より少し勝っていました。このままバトンをもらえば、勝てるはずだったけど、バトンを落として、最下位で走り始めました。四番目の子が、最下位で走りきるのは、絶対にいやだと思うから、全力で走りました。C組には、追いついたけど、B組には、追いつきませんでした。結果は二位で、すごく悔しかったけど、最下位では、なくてよかったです。来年は、悔いのないように、がんばりたいです。